

# 志木市新複合施設建設工事技術協力業務受託者選定公募型プロポーザル方式評価委員会 講 評

## 1. はじめに

志木市では、志木市新複合施設建設工事については、精度の高い施工を通じて、効率的で、かつ市民活動の拠点としてふさわしい新複合施設整備を目指しています。

本工事では、施工者の立場からの高度な技術提案及び技術協力を実施設計の見直し段階から積極的に取り入れることを主目的として、「技術協力業務受託者選定公募型プロポーザル方式（ECI方式）」を採用しました。

公募の結果、1者より参加申請があり、ECI方式の特性を生かした多くの提案、施工段階における「工程管理」「品質管理」「安全管理」における種々の提案、地域貢献に対する提案など、要項の課題に沿った提案がありました。

プロポーザル参加者の技術提案については、**志木市新複合施設建設工事技術協力業務受託者選定公募型プロポーザル実施要項**に基づき、評価委員会において透明性のある議論を経て、書類審査及びヒアリングを行い、厳正に技術審査を行いました。その結果、「実績評価点」「技術提案評価点」「価格評価点」を合算した総合評価点が86.4点となり、失格条項にある評価の最低点（65点）を十分に上回っていることを確認し、鹿島建設株式会社関東支店を最優秀提案者として選定し、市に答申しました。

## 2. 各審査項目の評価について

最優秀提案者からの提案に対し、評価した内容を以下に記します。

### ① ECI 業務に対する取り組み意欲とその体制

ECI マネジメント室を一元窓口とし、責任者が ECI 段階から竣工まで一気通貫でプロジェクトを推進する体制が示されており、体制の骨格や役割分担が分かりやすい提案となっていました。プロジェクト責任者が施工段階での現場代理人として継続的に関与する体制や社内のバックアップ体制が示されている点は、安定したプロジェクト推進を期待させる内容として評価できます。また、技術提案や VE 提案に関する様々な取組も示されており、本業務への意欲が感じられました。さらに、ECI 実績が 32 件と示されており、ECI 方式への対応経験が豊富である点も評価できます。

### ② 関係者と円滑にコミュニケーションを図る手法

課題と解決策の対応関係が整理されており、分科会の設置、もの決め工程表の作成、BIM による干渉確認、VE 提案及び変更管理リストの活用、クラウド型書類プラットフォームによる情報共有など、具体的な手段が提示されている点は評価できます。また、ECI マネジメント室に所属するプロジェクト責任者（現場代理人）が会議を主催し、現場事務所を後方支援する体制とすることで、ECI 段階から施工段階への円滑な移行が期待できる提案となっていることを確認しました。

### ③ コスト増加を抑制できるコストコントロール手法

コスト管理の具体的な運用方法が示されており、実務的な運用イメージが分かりやすい提案となっています。また、月次及び3か月ごとのモニタリングやフォローアップ会議の実

施など、継続的に状況を確認する運用サイクルが明確に示されている点も評価できます。さらに、工事請負契約予定時点までの工事費変動を早期に予測し、物価変動グラフを用いて建設市況を三者協議会で共有するなど、コストの見える化に関する取組も具体的です。今後は、ヒアリングで示された、「地下躯体の施工方法」「鉄骨大屋根の合理化」などを含めた種々のVE提案などを協議しながら、さらなるコスト縮減を期待します。

#### ④ 工程管理の適切性

工程管理については、クリティカルパスやマイルストーンの共有、BIM 施工ステップ図の活用、工事状況把握システムの導入など、多層的な管理手法が提案されており、工程管理体制の充実が図られています。また、本社や全国支店と連携した計画調達などにより、資材調達の観点から工程管理リスクを低減する考え方が示されている点は評価できます。一方で、工期短縮に関する提案は見られなかったため、今後は早期着工や工期短縮に向けた検討への取り組みを期待します。

#### ⑤ 施工管理（品質管理）の適切性

品質管理については、BIMによる総合調整、内部監査フローの設定、工種ごとの詳細検討及び施工確認など、複数の品質確保手法が提示されており、具体的な取組が示されている点、全社的な品質管理体制について言及されている点も評価できます。さらには具体的かつ複数の品質確保の多重チェック体制が示されている点は審査項目の中でも最も評価が高い結果となりました。

#### ⑥ 施工管理（安全管理）の適切性

車両運行ルートの設定、搬出入ゲートの安全設備の設置、近隣小学校の児童への配慮など、現場運用を踏まえた具体的な安全対策が示されています。また、騒音や粉塵についてもシミュレーションを用いた影響確認や対策が提案されており、周辺環境への配慮が具体的に示されている点は高く評価できます。

#### ⑦ 市内企業に対する貢献策

地域貢献責任者の設置や商工会への加入、建設WG・商業WGの設置など、地域連携の枠組みが整理されており、体制が分かりやすく示されています。また、市内企業の活用として交通誘導員や清掃業務の採用、物品・サービス調達など、地域企業の参画を促す様々な提案が示されている点は評価できます。今後は、これらの提案が実際にどの程度実行されたかを確認するためのモニタリング方法の具体化を期待します。

#### ⑧ その他、独自に行う市や地域への貢献策

現場ホームページの開設や仮囲いでの情報掲示、駅・市役所等での情報発信、市広報への工事情報提供など、地域への情報発信に関する様々な提案が示されています。また、地域住民や子どもを対象とした現場見学会の開催や地域祭事への協力など、地域参加型の取組も提案されています。さらに、見守りネットワークの構築や地域清掃活動など、多面的な地域貢献策が示されている点を評価しました。

### 3. 総評

提案全体を通して、地域貢献に対する考え方や安全面への配慮、特に近隣の小学校の児童に対する安全確保への配慮が具体的に示されていた点、地下工事の合理化など、業務着

手前の段階から具体的な改善ポイントに着眼している点など、本事業をともに推進していくパートナーとして信頼性の高い提案であると評価されました。

プレゼンテーションにおいては、本社・支店を含めた全社的な支援体制や本事業に対する意欲も示されており、組織として本事業に取り組む姿勢が確認でき、また、質疑応答においても的確かつ誠実な対応がなされていました。

さらに、市内企業の活用や地域活動への参画など、市内貢献に関する具体的な提案が示されている点も評価できます。今後はこれらの取組を実効性のある形で着実に実施していくことを求めます。

一方で、評価委員会では、本事業において期待の大きかった事業スケジュールや工期の短縮に関する提案が示されていなかったこと、確認申請の変更に伴うスケジュール調整上のリスクなどは、課題として指摘されました。技術協力業務期間において、工期及びコストの両面から、より踏み込んだ検討と具体的な提案が行われることを期待します。

今後は発注者、設計者、施工者の三者が協働し、ECI方式の特性を十分に活かしながら合理的な工事費および工程の実現を図り、本事業を着実に推進していくことを期待します。

令和8年3月13日

志木市新複合施設建設工事技術協力業務受託者選定公募型プロポーザル方式評価委員会  
委員長 岡本和彦（東洋大学理工学部建築学科教授）